

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

半田市地域公共交通会議

平成28年1月28日設置

平成30年3月30日 半田市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：平成30年4月～令和5年3月)

平成30年6月15日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和5年3月31日 半田市地域公共交通網形成計画変更
(計画期間：平成30年4月～令和7年3月)

令和6年1月15日 令和5年度評価結果送付

おでかけ環境が充実した 住み続けたいまち 半田

■ 半田市の概要

- ・ 人口：約11.7万人（令和2年国勢調査）
- ・ 鉄道：JR武豊線・名鉄河和線
- ・ 道路：南北に知多半島道路が整備

年月	内容
平成28年1月	半田市地域公共交通会議 設置
平成28年5月	半田市地域公共交通条例 制定
平成30年3月	半田市地域公共交通網形成計画 策定（5か年H30～H34）
平成30年10月	公共交通の再編 基幹路線バス2路線、地区路線3路線
令和元年	市内4地区で住民主導の「バス会」を設立
令和2年10月	バス会との協働による公共交通の拡大 地区路線バス1路線
令和3年9月	バス会との協働による公共交通の拡大 地区路線バス2路線
令和4年8月	バス会との協働による公共交通の拡大 タクシー制度1地区

■ 基本方針（H30～R6）

目標値	市内公共交通利用者数の増加 タクシー利用件数の維持 公共交通利用者の満足度の向上
基本方針Ⅰ	半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編
基本方針Ⅱ	半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実
基本方針Ⅲ	各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保
基本方針Ⅳ	関係者が連携・協働し公共交通を支えはぐくむ仕組みの構築



■ 継続実施

- ・★コミュニティバス地区路線Aごんくるの運行（R4:78,723人→R5:107,576人）
- ・コミュニティバス地区路線Bの運行（R4:14,679人→R5:20,015人）

■ 直近の取り組み

取組名称	取組概要	実施結果	実施結果の考察
おでかけタクシー制度の開始 （有脇小学校区、令和4年8月～）	指定目的地と自宅間のタクシー運賃を定額化（300円）	利用登録者270人（R5.11時点） 利用件数928件（R4.10～R5.9）	多くは買い物、通院に利用、地域の足として重宝され、地域のおでかけニーズに対応した交通サービスを整備できた
市内8路線無料乗車キャンペーン（令和4年11月～令和5年2月）	期間中の市内路線バス、コミュニティバスの運賃無料化	CP後に地区路線A・Bで利用者数増加 56,881人（R4.3～9） →72,476人（R5.3～9）	CPをきっかけに利用した新規利用者が、一定数定着したものと捉えている
新半田病院開院（移転）に向けた3者協議（半田市・常滑市・知多乗合株）	半田市、常滑市からの新半田病院への移動手段確保に関する協議	通院に限らず、両市の利用需要も絡めたアクセス案を検討中	半田・常滑線の存続も大切だが、再編によって影響が出る地域へのケアも配慮する

半田市おでかけタクシー登録証

利用者番号 AR-1

氏名

住所 半田市

発行者 半田市

発行日 年 月 日





■ 地区路線B車両の装飾も行いました



■ 目標値の達成状況

目標値（R6） ※4月～翌3月を 1年度として集計		達成状況						目標 (バス利用者数は目標と実績乖離の 是正のため公共交通会議の協議に 基づき再設定した目標値)	結果・考察
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年		
バス利用者数	1,300人/日	1,221人/日	831人/日	919人/日	931人/日	983人/日	1,182人/日	【目標未達成】 ・R3からR4は利用者増 ・コミュニティバスの利用者 増が大きく貢献 →不調路線あり ・路線バスは依然復調せず	
知多バス路線		361,059人/年	237,250人/年	241,812人/年	216,072人/年	241,812人/年	301,406人/年		
地区路線A		85,984人/年	63,383人/年	73,747人/年	96,963人/年	91,156人/年	97,578人/年		
地区路線B			2,500人/年	10,175人/年	17,662人/年	17,700人/年	21,870人/年		
タクシー利用件数	1,500件/日	1,479件/日	1,000件/日	1,032件/日	916件/日	1,500件/日	1,500件/日	【目標未達成】 ・コロナ禍以降利用者減 ・運転手不足による、供給 不足の可能性もあり	
利用者満足度	30%以上		37%		37%	38%		【目標達成】 ・満足度は1ポイントアップ し目標水準は達成した ・不満割合の9ポイントアッ プが懸念	

課題

- ① コミュニティバス地区路線A・Bの不調路線の改善
- ② 路線バス利用者回復に向けた取り組み（新半田病院への移動手段確保）
- ③ タクシーの利用促進に向けた取り組み

目標の達成状況・課題	達成見込・対応方針
<p>●バス利用者数 【目標未達成】 市内8路線全体で利用者は増加傾向</p> <p>①コミュニティバス不調路線の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区路線A 亀崎・有脇線 ・地区路線B 瑞穂線 <p>②路線バス利用者回復に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半田・常滑線 	<p>➡現状、達成目標期日（R6）より緩やかに達成する見込み</p> <p>【亀崎・有脇線】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方向循環ルートが不便 ・定時定路線にこだわらない、運行エリアを拡大→デマンドバスの導入を検討 <p>【瑞穂線】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行エリアの拡大、ルート、所要時間の見直し、運行便数を増便 ・令和6年4月新路線運行開始予定 <p>【半田・常滑線】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の利用者数調査のため週末限定（金、土）の夜間追加便を運行（R5.10～R6.2） ・新半田病院移転（R7春）と併せて抜本的な改善を検討→現在の利用需要も一部満たしつつ、新半田病院への移動需要を取り込むことで、利用者確保を図る
<p>●タクシー利用件数 【目標未達成】 コロナ禍以降利用者は減少傾向</p> <p>③タクシーの利用促進に向けた取り組み</p>	<p>➡目標達成は非常に厳しい、次期計画にて目標値の見直しも検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おでかけタクシー制度を他地区へも導入し、タクシー需要の新規拡大を図る ・R6年度導入を目標に横川小学校区で実証実験中
<p>●利用者満足度 【目標達成】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元バス会と協働した広報、イベントの継続実施 ・上記路線改善等によって地域のおでかけニーズに適した公共交通網を整備する

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	亀崎・有脇線については2路線と比較し、利用者が少ない理由について分析し、利用促進等を行うことを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間運賃無料乗車キャンペーンを実施 ・地区バス会を設立し、改善点を分析、協議中 	<ul style="list-style-type: none"> ・亀崎地区に限らず、広域的に交通網を見直すため、デマンドバスの導入を検討中
	令和4年11月に実施した市民アンケートをもとにバス路線の再編効果を検証していただくことを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・再編後、特に亀崎・有脇線、半田・常滑線の不調が続くため、利便性、満足度の点から改善を計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・亀崎・有脇線では、路線改善を計画、半田・常滑線は通院以外の新規需要を取り込めるよう協議中
	地域間幹線系統である半田・常滑線(A)線の輸送量が15人を下回っており、現状の把握に努められるとともに、常滑市と連携して利用促進を図るよう期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間運賃無料乗車キャンペーンを実施(半田市のみ) ・一定期間夜間追加便運行キャンペーンを実施(半田市のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・常滑市、知多乗合(株)と新半田病院への移動手段確保と併せて抜本的改善策を検討中
前々回	地域間幹線系統である半田・常滑(A)線の輸送量の減少が比較的大きいため、現状の把握に努められるとともに、常滑市と連携して利用促進を図るよう期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間運賃無料乗車キャンペーンを実施(半田市のみ) ・一定期間夜間追加便運行キャンペーンを実施(半田市のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・常滑市、知多乗合(株)と新半田病院への移動手段確保と併せて抜本的改善策を検討中
	地区路線は伸び悩んでいるところが多いため、地区バス会と協働して、バスの認知度、満足度の向上を図り、福祉関係部署との連携も取り入れつつ、利用促進や見直しの議論を進められるよう期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間運賃無料乗車キャンペーンを実施 ・地区路線B車両に、街中で目に留まる車両デザインを導入 ・地元バス会と協働して、広報、イベントを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・亀崎・有脇線、瑞穂線の見直しを実施 ・引き続き地元バス会と協働して、広報、イベントを実施
	有脇地区における新たな公共交通については、地域とよく話し合いながら実証の目的を整理し、最適化が図られるよう期待します。	<ul style="list-style-type: none"> ・R4.8～おでかけタクシー制度の導入(自宅と指定目的地間の料金定額化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの声等、改善点を解決しながら、引き続き制度の継続運用を行う

※前回：令和5年3月10日、前々回：令和4年3月10日

		令和5年度				令和6年度				令和7年度
		4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	
半田市地域公共交通 網形成計画の策定 (Plan)										●■■■■■ 計画改定
事業の実施 (Do)	個別事業の 計画 (Plan)	事業内容の確定				事業内容の確定				
	個別事業の 実施 (Do)	事業の実施 (見直し)				事業の実施 (見直し)				
	個別事業の 評価検証 (Check)				事業評価				事業評価	
	個別事業の 改善点の検証 (Action)				見直し検討				見直し検討	
	ネットワーク全体で の評価検証 (Check)	評価のためのニーズ調査				評価検証				
半田市地域公共交通 網形成計画の見直し (Action)						計画検討		評価結果反映		

【令和5年度半田市地域公共交通会議の実施状況】

- 第1回 6月26日 主な議題：横川地区でのおでかけタクシー実証実験
- 第2回 8月16日（書面） 主な議題：半田市路線バスの夜間追加便運行
- 第3回 10月16日（書面） 主な議題：スーパーイシハラバス停撤去（瑞穂線）
- 第4回 12月20日 主な議題：瑞穂線の路線改善（案）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月20日

協議会名: 半田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を分析の上記載】	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんくる「亀崎・有脇線」 日本福祉大学～亀崎駅～日本福祉大学	・コロナ禍でも安心・安全にバス利用できるよう、対象車両内の抗菌・抗ウイルスコーティングを継続実施した。 ・地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用して普及・啓発を図った。	A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「亀崎・有脇線」の維持・確保を実施。	A	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であるが、以下2路線と比較すると利用者が少ないため、路線改善等を含む将来的な見直し検討を進め、以下のとおり、利用促進策を実施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用した普及・啓発、継続実施する。
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんくる「半田中央線」 パワードーム半田～知多半田駅～新美南吉記念館	・亀崎・有脇線改善のため、地区バス会を発足し、不調原因の分析と改善案について協議を進めた。 ・運行事業者と連携し、4か月間市内の路線バス8路線の無料乗車キャンペーンを実施することで、子どもから高齢者まで幅広い世代のバス利用の需要開拓を図った。	A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「半田・中央線」の維持・確保を実施。	A	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であり、以下のとおり、利用促進策を実施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用した普及・啓発、継続実施する。
知多乗合(株)	半田市地区路線バスごんくる「青山・成岩線」 君ヶ橋住宅～青山駅～君ヶ橋住宅	・コロナ禍でも安心・安全にバス利用できるよう、対象車両内の抗菌・抗ウイルスコーティングを継続実施した。 ・地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用して普及・啓発を図った。	A	計画どおり、市内を大きく南北に結ぶ基幹路線「半田・常滑線」「半田北部線」と各地域を結ぶ「青山・成岩線」の維持・確保を実施。	A	住民にとってなくてはならない公共交通の基盤となっていることから、今後も事業の維持継続が必要であり、以下のとおり、利用促進策を実施していく。 ・地域の会合、大型商業施設でのバス展示・乗車体験イベント等を活用した普及・啓発、継続実施する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月20日

協議会名:	半田市地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
----------	---------------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>・半田市では、「おでかけ環境が充実した 住み続けたいまち 半田」を交通将来像として掲げ、以下の基本方針に沿って目標の実現を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none">①半田市の一体性の強化及び観光施設・イベントを回遊できる公共交通ネットワークの再編②半田メインストリートにおける公共交通サービスの充実③各生活圏のおでかけニーズに対応した公共交通サービスの確保④関係者が連携・協働し公共交通を支え育む仕組みの構築
-----------------------------	---

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

半田市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和4年10月～令和5年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>市内の路線バス利用者数1,100人/日（H28年度） →1,300人/日（R6年度） ※目標と実績乖離の是正のため公共交通会議の協議に基づき再設定した目標値 919人/日（R4.4.1～R5.3.31）</p>	<p>・市公式LINEで路線、時刻表を閲覧可能に ・地元バス会との協働や地元企業と連携した普及啓発 ・運行事業者と連携した、市内路線バス全線の無料乗車キャンペーンの実施による、幅広い世代の需要開拓</p>	<p>運行事業者及び市が有する乗降データ及び実績値を用いて計測</p>	<p>【目標達成】931人/日（R4.4.1～R5.3.31） ①コロナ禍からの回復に伴う、既存路線における通勤・通学者及び、おでかけ需要の復調 ②既存路線が新設された後、まもなく、コロナ禍に妨げられていた路線の自然成長 ③4か月間実施した、無料乗車キャンペーン（R4.11～R5.2）による新規利用者の定着 ④地元バス会との地道な広報活動や、利用促進イベントの企画等の強化</p>	<p>・市の中核施設である、半田病院移設によって生まれる新たな移動需要に対応するため、各関係機関と調整、方針を定めるとともに、既存路線への影響等についても検証する。 ・不調路線の要因や、住民からの要望を精査し、地元バス会との協議を重ね、経路等の見直しを行う。 ・地元バス会と協働し、バス利用者の実際のおでかけ事例を紹介する広報の実施や、地元企業が企画する、トレーディングカード事業の取り組みに参加するなど、より身近に感じ（継続）利用につながるようなPRを実施する。 ・残存する交通空白地域への取組として、引き続き、住民ニーズに沿った公共交通のあり方について協議・検討を進めていく。</p>	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。